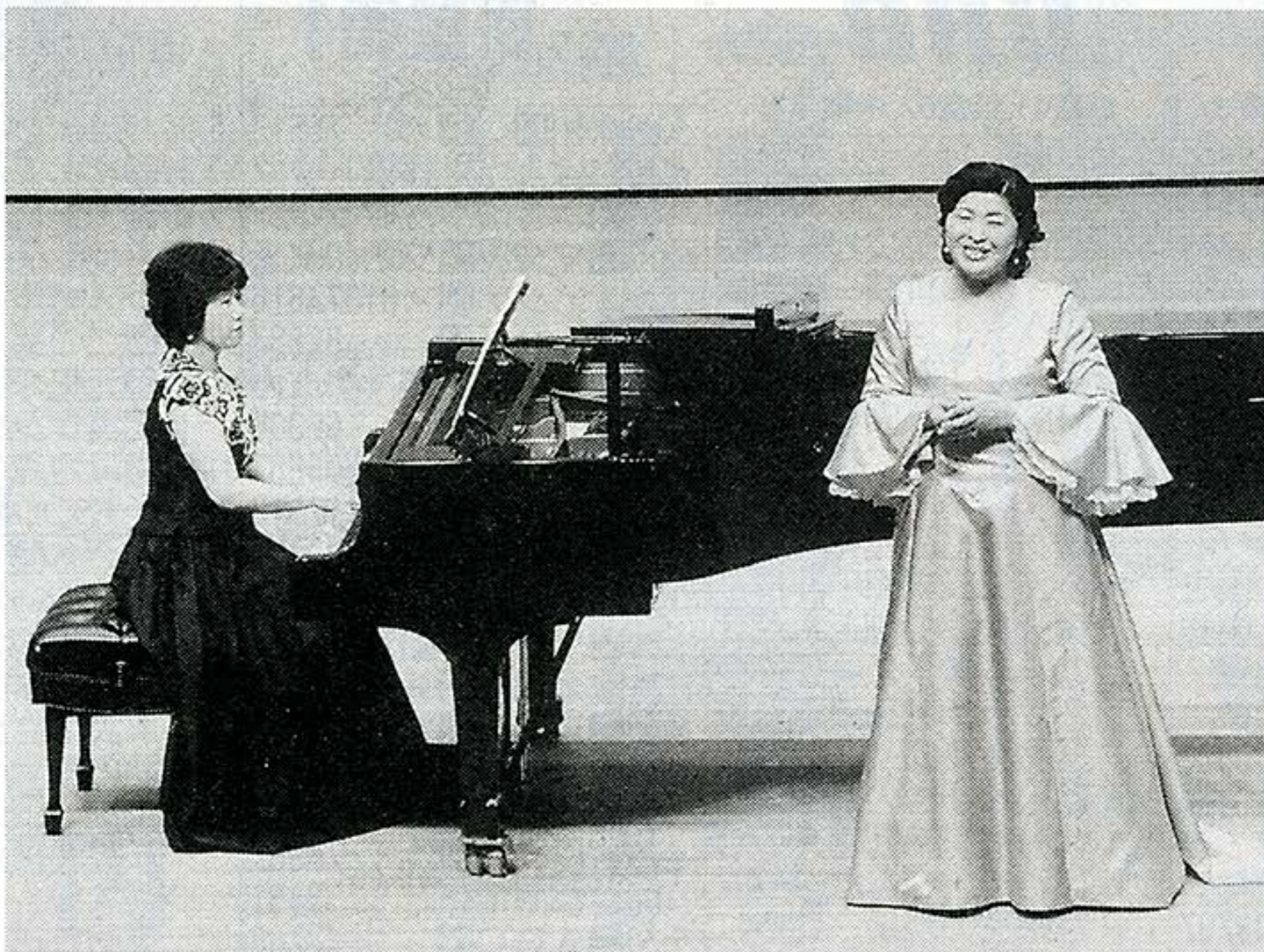


釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

5歳の時にピアノを始め、中学時代には合唱部、本格的に声楽始めた。「ピ」思っていた。歌うこともと振り返る。



泉 洋子さん (46) 釧路市松浦町15の21

高校を卒業後、札幌大谷短大音楽科声楽コース、同専攻科で学んだ。大学卒業後は伊藤功俊さ

声楽

ん(現・道教育大名誉教授)の指導を受け、釧路や札幌市内などで開かれる数多くの演奏会に出演、市民に歌声を披露してきた。歌声は温かく「歌を聴いてくれた人たちはやさしさを感じたと言ってくれる」。

個人としてのソプラノリサイタルを釧路市内で81年、84年、88年、93年、2000年に開催した。リサイタルは「気持ち

高まっていなければいけないもの。求められるも

準備も重要で、時間を掛けてリサイタルに臨むため次回はまだ未定だ。

しかし「自分らしい歌を歌いたい。その歌で聴いた人に心地よさを感じてもらえばうれしい。小さな会場で息遣いが伝わるコンサートを開きたい」と次回のリサイタルに意欲を見せる。

後進の指導にも尽くす

温かい歌声 道内各地で

今回の受賞には「思いがけないこと。活動を評価されたことはとてもうれしい」と率直に喜んでいいる。演奏活動の傍ら、道教育大釧路校の非常勤講師として後進の指導にも尽くしてきた。声楽の素晴らしさを少しでも多くの人に知ってもらいたいと願う。「これから歌を歌える時間は限られている。長く歌い続けることができれば幸せ。自分なりの歌を歌い、声楽を広める努力もしていきたい」と話している。

のもどんどん高くなってくるのでプレッシャーが掛かる」という。事前の